

自然の持つ美しさに触れてみませんか

薩摩川内市藤本地区コミュニティ協議会



藤本滝

薩摩川内市樋脇町、市比野温泉から鹿児島市郡山方面に抜ける県道36号沿いにある藤本農村公園。公園内に入り坂を下ると透き通るような空気と水の流れ。その奥に現れる滝が藤本滝です。高さ20mの上流から糸を引くように落ちてくる水流は、途中で一度向きを変えて滝つぼへ。その美しさは、薩摩華厳とも称され多くの人が訪れており、薩摩川内市が制定した「薩摩川内市景観重要資産」の第1号に指定されています。



「藤本滝のほかに上流の棚田や溪流などもきれいなので、溪流登りなどのイベントもしていけたらいいですね」と話す笹森さん。

【問い合わせ先】
藤本地区
コミュニティセンター
☎0996-38-1080

この滝の周辺整備に取り組んでいるのが藤本地区コミュニティ協議会。昨年からお盆の時期に滝をライトアップし、幻想的な雰囲気を楽しんでもらえるようにしました。「県内各地から多くの方が見に来られました。地域活性化への取り組みとして始めた活動ですが、自然の持つ美しさに触れてみたいと思う人の多さに驚きました」と話すのは、コミュニティ協会の笹森勝之さん。滝周辺の景観づくりを始めから、地域住民から提案も出てくるようになってきたという笹森さん。「今年の春には地区名にちなんで藤棚を作ろうと公園内に藤の木を植えました。何年先になるかわかりませんが、滝に花を添えるようなものになっていけばいいですね」と夢をふくらませています。

景観づくりで地域を元気に

～地域の魅力を生かしたまちづくり～

みんなでまちをつくらせていきたい

NPO法人プロジェクト南からの潮流

薩摩半島の南西端に位置する南さつま市加世田は、東シナ海に面し、日本三大砂丘の一つに数えられる吹上浜が広がります。市内には、今でも島津日新公の菩提寺跡である竹田神社や麓地区の武家屋敷など、歴史あふれるまち並みが残っています。

まち歩きガイドなどを行い、歴史や景観など周辺地域の魅力を紹介している南さつま市のNPO法人プロジェクト南からの潮流では、別府城を中心に栄えた加世田麓地域を案内するとともに、この地域に残る、江戸、明治、昭和初期の建築や水路のあるまち並みを残す取り組みを行っています。

「壊してしまうのは簡単。でも、同じものは二度とできませんからね」と話すのは理事長の田代昌弘さん。現在、



さまざまな年代の建築物が並ぶ。病院を改装した喫茶店(写真左の建物)。



「通りには、古民家を改装した鍛冶屋や飲食店もあるんですよ」と話す田代理事長。

【問い合わせ先】
NPO法人プロジェクト
南からの潮流
☎0993-52-7829

改修中の古民家は、明治36年ごろに建てられ空き家だったもの。「せっかく残っていた歴史ある建物を、どのように保存していくか、まだまだ手探り状態です。歴史的建造物を活用したまちづくりに、地域に住む人たちも巻き込んで、みんなで取り組んでいきたいです」と笑顔で話してくださいました。

鹿児島市

薩摩川内市

屋久島町

県内市町村での取り組み状況

- 景観行政団体(市町村独自で景観法に基づく景観計画を立てられることができる) 18市町
- 景観計画策定 3市(22年度以降策定予定 13市町)
- 条例制定 3市1町(景観法委任条例)

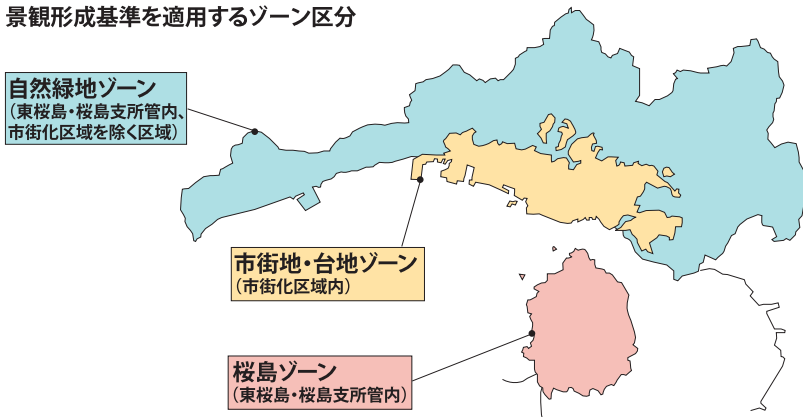
景観に配慮したまちづくり—鹿児島市

桜島をはじめ、近代化発祥の地として多くの歴史や美しい景観を有する鹿児島市。桜島や城山の眺望確保の基準を設けるなど早くから景観づくりに取り組んでいて、市内全域を景観計画の対象地域とし、桜島ゾーン、市街地・台地ゾーン、自然緑地ゾーンに分けて、地域に合った景観づくり事業を進めています。

「自分たちの地域を知ってもらうことが景観を考えるうえで一番大切なことだと思ひ、定期的に小学校での景観まちづくり学習や、地域の方々との話し合いや意見交換を行っています」と鹿児島市都市景観課の東俊昭課長。地域を知り、愛着を持ってもらうことで、そこに住んでいる人たちが自身による良好な景観形成を目指しています。

「景観を守るには、市民、事業者、行政の連携が不可欠です。建物の高さや色彩、屋外広告の一つにしても、それぞれが景観づくりに関係しているという意識を持ってほしいですね」。

景観形成基準を適用するゾーン区分



「鹿児島市には、誇れるものがたくさんあります」と話す東課長。

眺望の確保 2つの視点場を設けて眺望を確保しています。



鹿児島市では、地域の個性ある景観づくりの核として大切にしていくために、景観上重要な建造物および樹木を、景観重要建造物、景観重要樹木に指定しています。

【景観重要樹木】

隣り合う2本の樹木(指定番号第1号:クスノキ、第2号:タブノキ)[谷山]

JR谷山駅周辺の永田川沿いで寄り添うように立つクスノキとタブノキは、それぞれ樹高約20m。

神社の境内にある2本の木は、昔からこの地域を見守り続けています。



【景観重要建造物】

藤崎家武家門(指定番号第2号)[桜島]

島津義弘が関ヶ原の戦いの後、慶長6年(1601)、徳川氏に恭順の気持ちを表すために移り、2カ月ほど蟄居した際に宿所とした藤崎家の屋敷門。



【問い合わせ先】鹿児島市都市景観課 ☎099-216-1425

まちづくりを応援していきたい—薩摩川内市

「守り・つくり・高める」をキャッチフレーズに景観づくりに取り組む薩摩川内市では、「景観Ⅱ規制」というよりも、サポート部分に重点を置いています。

「規制するよりも応援する方が、やり甲斐を感じます。行政が手助けするのは、住民だけでは手が回らない部分だけ。あくまでも、住民主体の活動にしていくことが狙いです。地域の方々の生き生きとした顔を見るのがうれしいですね」と話すのは薩摩川内市都市計画課景観グループ長の高山和人さん。

薩摩川内市では、平成21年度から地区コミュニティ協議会から提案を受けて地区のシンボルになっている景観を「景観重要資産」として指定しています。現在、橋や堤防など五つが指定されていて、今後増やしていきたいとのこと。「素晴らしい景観というだけでなく、保全活動などコミュニティ協議会の取

市民から募集してできた「薩摩川内市ふるさと景観100選マップ」と2カ月に1回発行される「さんぽっぼ〜景観だより」。どちらも、薩摩川内市の魅力が詰まっています。



り組みも指定要素の一つです。地域活性化にも役立っていったらいいですね」と高山さん。

このほかにも、市民に景観という言葉を知ってもらいたいという言葉を学校の出張授業や薩摩川内市の名所を巡る「まちあるきウォッチング」などの活動も行っています。

「景観への関心が高まることで、住んでいる町を、もっと好きになってもらえたらうれしいですね」と笑顔で話してくださいました。



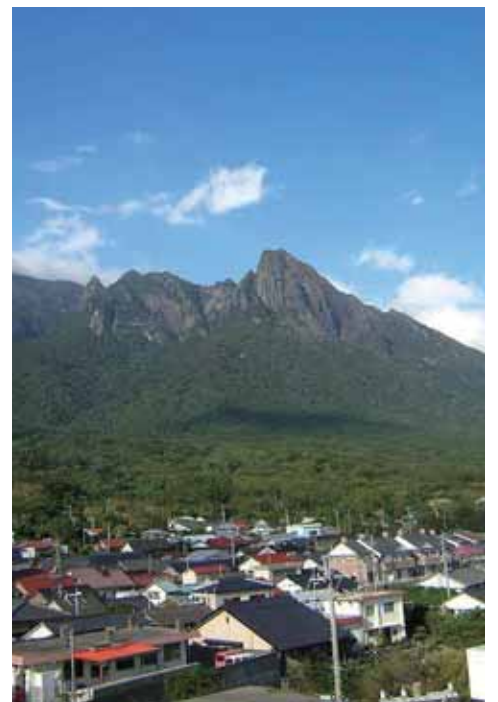
「海があって、島があって、山がある。薩摩川内市はいろいろな資源を持っていてメリハリがある市です」と話す高山さん。

【問い合わせ先】
薩摩川内市都市計画課
景観グループ
☎0996-23-5111

人と自然が共生する島に—屋久島町

平成19年に上屋久町と屋久町が合併し誕生した屋久島町。合併前から自然との共生の意識が住民の中にも根付いていましたが、合併を機に世界自然遺産の島ならではの景観を将来の世代に受け継いでいくための景観づくりが始まりました。

「今あるこの美しい風景を守りながら、自然に調和していかないものを取り除いていきたいですね。その反面、世界遺産の島といっても、人々が暮らす場所でもあるので、住民の生活や経済活動も考慮した景観づくりをしていきたいです」と話すのは、屋久島町企画調整課の矢野和好課長補佐。現在、策定中の景観基本計画では、集落を形成する集落形成地域や、特産のぼんかん・たんかんを栽培する農



モツチョム岳の麓風景

業地域、世界遺産の地域が属する自然保護地域など島を六つの地域に分け、人と自然が共生しやすいまちづくり計画が進められています。

「集落形成地域では、規制を緩めるなどの配慮も必要だと思います。地域住民にだけ負担を強いるのではなく、住民が進んで景観形成をしていきたいような取り組みをしていきたいです」と矢野さん。また、「島内の家やホテルなども、屋久島の自然に調和するような色調で建てるところが多いです。『屋久島らしさ』を考えていただいている証拠でしょうか。これから先も、屋久島らしさを永続できる景観づくりを目指していきたいですね」と力強く話してくださいました。

「森・水・人が一体となったこの美しい島を守ってきたい」と話す矢野さん。



【問い合わせ先】
屋久島町企画調整課 ☎0997-43-5900